



我妻榮記念館 だより

第 11 号

発行日/2007年8月1日

発行/我妻榮記念館事務局

☎992-0045

米沢市中央3-4-38

TEL・FAX 0238 24 2211

米沢興譲館高等学校創立70周年記念式典に

臨席された高橋里美学長(左)と我妻榮教授(右)

高橋里美学長・我妻榮教授 母校の記念式典に臨席される

館長 今 田 久 夫

昭和三十一年（一九五六）九月十九日、米沢興譲館高校の創立七十周年記念式典に東北大学学長高橋里美と東京大学法学部教授我妻榮が臨席されている。上の写真はその折母校の玄関前で撮影されたものである。

高橋里美は米沢中学校を明治二十七年（一九〇四）に、我妻榮は大正四年（一九一四）に卒業しており、我妻榮は十年後輩になる。

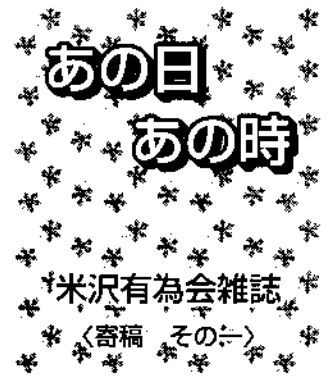
高橋里美はあらゆる存在を内に包みこめる「包越」の論理に基づく「包弁証法」をときどき独自の観念論哲学を確立している。また、我妻榮は一筋に民法の研究と指導に当たると共に、日本学術会議会員、法制審議会委員法務省特別顧問等の要職について活躍中である。

まさに日本の学界に聳えたつ両巨星が奇しくも往時の学舎の庭に立たれたのである。

当日の記念式典で高橋里美は祝辞をのべ、我妻榮は講演をされた。講演の要点は以下のようである。

（『我妻 榮講演集』より抜粋）
我妻榮の講演はわかりやすい比喩を用い、理路整然として歯切れがよく、全生徒・教職員に深い感銘を与えた。

母校訪問の翌年、高橋里美は学長を辞任し、我妻榮も東大を定年退官された。



大正八年、我妻榮が学生であった時、米沢有為会雑誌が新企画として寄稿をつのった。在京米沢学生が相集まって思想の交流や時事問題の討議をする機会をこの雑誌上でするものである。テーマは「思想」「時事提言」「大聲小聲」等であった。そこに、我妻榮が投稿しているので一部を紹介する。

我妻 榮

自由か平等か

「自由か平等か」などと云つたら百二十年も前佛國革命の際に既に唱えられたモットーを今更麗々しく並べたてたと思ふ人があるかも知れない、先程言うまでもなく佛國革命の幾百萬人の尊き血潮は悉くこの自由と平等の爲に流された、而して其の功績は今も尚依然として各國の憲法に存して居る事は疑なき所である。然し乍ら革命後百三十年、社會の面目は正に一新した今日、猶この自由と平等が一千七百八十九年の昔唱えられた

と同じ意味に於て主張し得られるものかどうが一應研究の余地がある。私はこの短文に於て主として法律の立場からこの問題に入つてみる積である。

△△△△△

中世歐洲に於ける社會制度が不健全の極に達して國家の殆んど全部を占むる平民階級が極めて少數の貴族僧侶の爲に庄迫せられて塗炭の苦に悩む際に、ブルボン王朝の批政百出し而もルイ十五世、十六世暗愚にして決斷なく衆怨益々昂まり遂にルッソニー派の自由思想に煽動させられて一千七百八十九年十二月バスチーユ牢獄を破壊してその烽火を挙げた佛國革命は近世史の重要な出发点をなすものであるが同時に我法律學上に於ても最も重要な時期を劃して居るものである。否見様によつては現代の法律は革命によつて全く新しき基礎の上に置かれたと稱する事も出来るのである。(つづく)

「米沢有為会雑誌」について

本会発足の明治二十三年から発行された会員交流雑誌である。各号約二十頁のポリウムものを毎月二十六日発行するというもので、当時の若者のすごいエネルギーを感じる。東京興讓館や個人から寄せられた貴重な資料で市立米沢図書館に収蔵されている。

我妻 榮記念館の運営

我妻榮明治三十年生まれの生家を記念館として開館したのは平成四年です。我妻家は六正六年の米沢大火で焼失をまぬがれましたが、同年市内へ転居しました。その後大正六年から昭和六十四年まで暮らしていた方が転居することとなり、建設会社で買い取ったものを社団法人米沢有為会が取得し、補修を行ったものです。

先住者は約七十年の間この家で過ごしておられました。昭和の時代にサッシなどの取り付けもせず生活してこられました。記念館として運営する経費としては年間約二百万前後となっています。通常の運営費以上に大修理をしなければならぬ時期に來ておりますが、今のところその経費の捻出手段は未検討です。

市民の方々からは、記念館の新設案や移転案、大修理案も提案されますが、社団法人の運営上経費の目処が立っていないのが現状です。

今年の記念館の運営計画と予算をご紹介します。

- (1) 記念館の補修整備
- (2) 各種資料の整理・目録作成
- (3) 各種資料の保存方法の検討
- (4) 各種資料のデジタル化の実施
- (5) 利用拡大・広報PRの検討
- (6) 記念館だよりの発行
- (7) 運営委員会の開催
- (8) その他必要な事項

平成19年度我妻榮記念館予算書

収入の部			
	予算額	備	考
負担金	380,000	米沢有為会より	
補助金	1,602,000	米沢市より	
雑収入	26,117	利子、色紙等頒布代	
繰越金	291,883	平成18年度より	
合計	2,300,000		

支出の部			
	予算額	備	考
1. 事業費	440,000		
報償費	70,000	臨時開館謝金等	
印刷製本費	120,000	記念館だより他	
資料保存費	250,000	資料デジタル化、複製等	
2. 管理運営費	1,375,000		
賃金	600,000	管理人賃金	
必要費	180,000	消耗品、光熱水費等	
役務費	150,000	通信費、火災保険料等	
委託料	300,000	除雪費	
使用料	80,000	NCV、インターネット等	
負担金	15,000	町内会費	
会議費	20,000	運営委員会等	
旅費・雑費	30,000		
3. 施設整備費	450,000		
補修整備費	400,000	屋根、垣根補修等	
備品購入費	50,000		
4. 予備費	35,000		
合計	2,300,000		

回想 日々の我妻榮 ②

我妻榮の健康法

名譽館長 我妻 堯

亡父、我妻榮は若い頃には野球やテニスなどの運動もやっていたらしいが、昭和五年頃に家の前の田んぼでイナゴ取りをしていた時に足をくじき、その後無理をした為にくるぶしの結核性関節炎になったと聞かされている。当時の日本では結核が蔓延していたが、現在のように有効な薬剤がなかった為、レントゲンや紫外線をあてたり丈夫なギプスで固定して安静を保つ以外に治療法がなかった。現在のようにプラスチックやジュラルミンなどの軽くて丈夫な素材がなかったために、最初のギプスは鉄の棒で両側を補強した革製の重いもので、その為に膝の関節にも負担がかかり、炎症が膝にも及ぶことになった。

父は歩いたり走ったり出来ないので上半身を動かす運動を心がけようとしたらしく、私の幼い頃には庭の隅に矢場を作り、半弓を引いていた。自分で梓紙を貼って作的を作るのを手伝



1962年 真鶴にて朝の体操

た思い出があり、東京大学の弓道部部長をしていたこともある。その後運動の為にドイツ留学中に覚えたピリヤード(撞球)をする小屋を建てて、球撞きに凝っていた時期もある。球撞きは白球二つと赤玉二つのキャロム・ピリヤードで、撞いた球が台の縁に当たると跳ね返るがその方向を予測する為に幾何学的な思考を要することも気にしていた理由と思われる。しかし、炎症が膝関節に広がった為と戦争の気配が近づいた社会情勢を考慮して中止した。その後は専ら自分で考え出したラジオ体操を毎日朝か晩に七分間やることを日課にし、冷水摩擦も欠かさず実行していた。関節炎の治療として下肢の日光浴を医師に勧められたこともあり、軽井沢や

真鶴の別荘では必ず日光浴をしていた。几帳面な性格は規則正しい生活、毎朝・毎晩の体操などに現れている。

ギプスで固定を余儀なくされたり、膝に炎症が及んだ時には、ずいぶんと悩んだらしい

が、時がたち晩年になると脚の不自由さを達観して自分は「精巧なキカイ人種」であると思ひこむようにした節がある。「北京のホテルで遙かに天壇を望んだり紫禁城の甍を眺めながら我流の体操をやるのは愉快であった」と随筆に書いています。現在のような健康ブームなど下半身を鍛える手段もあつたかもしれないが、父の時代には間に合わなかった。下半身が弱いと抵抗力が衰える可能性があり、最後に胆嚢炎に起因する細菌性シヨックに耐えられなかったことは今でも無念に思う。

(参考文献：「身辺随想」松葉杖「追想の我妻榮」一粒社刊)

来館者の日記

●平成十九年三月

官城県立金山小学校教諭阿部先生が記念館を訪問された時の様子を五年生の学級通信として作成されたものを送付いただきました。

阿部先生は大学で法律を勉強されたということで、特に我妻榮先生の著書を多く読まれたそうです。我妻先生が米沢出身だとは知りませんでしたとのことでした。大学時代を思い出し米沢の我妻榮記念館や上杉神社など史跡も訪ねられ、子ども達に

●平成十九年六月

岐阜市に事務所をお持ちの中田さん一行十名が見えられた。中田さんは三年前記念館を訪れ、我妻先生の巻物といわれる法律年表(十二メートル)に強い印象をお持ちでした。

事務所の皆さんにこれを見てもらいたくて来たんだと言っていた。この年表から得られる業務上のヒントがたくさんあることを確認しておられました。一回目は一人で訪問していただきましたが二回目です。皆さんの感謝しております。

3007 3 5 (月) 第186号 (02198)

わになって

我妻 榮

日本は法治国家であり、法律に基づいて政治が行われています。多くの法律があり、時代の要請で日々改正・追加されていますが、基本となるのは次の6つの法律です。

日本国憲法 民法 刑法 民事訴訟法 民事執行法

六法といわれているものです。その中で、民法は、婚姻・相続・債権・債権に分類されています。民法のすべての分野にわたって著書を出版。東京大学教授・法務省特別顧問を歴任し、文化勲章を受賞されたが、民法学の第一人者、我妻榮博士です。

昭和48年に76歳で亡くなりましたが、その後多人数の影響をもち、博士の著書は、法律を学ぶ学生にとって必須の書でした。単に民法の専門家としてだけでなく、新安保条約の発効に際しては反対の立場から、「岸信介首相に与える」という文章を著し、退陣を迫ったことでもあります。

大学時代、博士の著書に接した頃はすでに亡くなっていました。博士が東北出身者であることが知りませんでした。山形県米沢市出身です。

3月18日、ふと思い立ち米沢まで出かけてきました。博士の生家は記念館になっていますが、開館日は金・土・月でした。メールで管理人の方に連絡すると、開館日でしたがこの日なので出かけてきました。

それはのびやかではありませんでしたが、資料がたくさんあり、大学時代を思い出していました。しかし、本業の足踏だけでなく、学生時代に出した13歳下の妹さんへの思いが伝わりました。

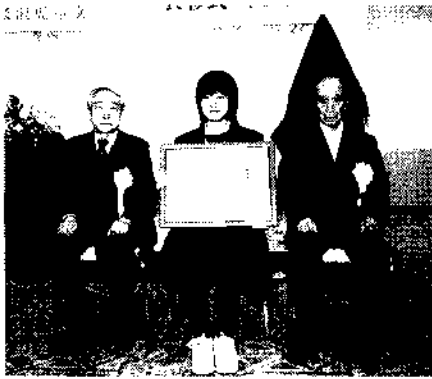
2層の書庫の博士の書斎

博士の書斎と事務所

我妻榮児童文化賞

第十四回我妻榮児童文化賞の表彰式が去る二月二十四日(土)市内サンルートホテル米沢で行われました。受賞者は小学校の部で二人、中学校の部で一人でした。

表彰式は主催者の高森務(九十九才)米沢児童文化協会会長、我妻榮記念館の我妻義名(館長)、今田久夫記念館館長はじめ、多くのご来賓の方々、審査員、保護者や付き添いの先生に見守られながら盛大に行われました。



本年の我妻榮児童文化賞に輝いたのは小学校の部では、西部小五年の佐藤ふみさんと同小五年の伊藤翠さんでした。ふたりは共同研究で朝日新聞社主催の第二十五回「海とさかな自由研究・作品コンクール」で全国四位に相当する「朝日新聞社賞」に輝いたとのこと。ふたりは、文献などを使いハレの日は何を食べるかなど地方性をよく調べた研究で、更に米沢の郷土料理にも深い関心をもち、専

門的に深く研究し、料理にも取り組むなどしながら歴史や風土にも興味をあげ追求する意欲が高く評価されました。中学校の部では、南原中二年の中嶋美里さんが受賞しました。中嶋さんは「山火事予防ポスター用原画・標語の募集」で原画の部全国三位の「消防庁長官賞」を受賞したことが今回の受賞となりました。本当におめでとうございました。

我妻榮記念館に 標示塔設置



平成四年に開館した我妻榮記念館も今年で十五年目を迎えます。鉄砲屋町という町内の中程にあり、今まで設置していた看板では、近くまで来ないと記念館の場所がわからないという意見がありました。そこで通りから見える様な記念館の標示塔として今度新設しました。

この標示塔「我妻榮記念館」と一体に米沢市の観光看板も設置しました。観光案内板としては、「我妻榮の生家」と表示され下記のように記されています。

また、米沢市では旧町名の由来を書いた標柱を設置しています。鉄砲屋町の由来標柱も合わせて設置しました。

(なお、米沢有為会設置の「我妻榮記念館」の看板は玄関の左側に取り付けました。)

我妻榮の生家

我妻榮は、明治三十年(一八九七)四月一日鉄砲屋町(現中央三丁目)のこの家で、我妻又次郎・つるの長男として生まれた。興讓小学校、米沢中学校(現興讓高校)、第一高等学校、東京帝国大学を優秀な成績で卒業し法律学者の道に進む。民法を統一的に研究し、日本を代表する民法学者となり、その成果は「我妻民法」と称された。

昭和三十九年、法曹界への功績により、文化勲章を受章、米沢名誉市民に推挙された。また、我妻は郷土を愛し興讓館高校に「自願奨学財団」を設立、興讓小学校には「まがき文庫」を寄贈する等、後進の育成に尽力した。

この生家は、郷土の有為な人材育成を図る(社)米沢有為会が購入し、平成四年に我妻榮記念館として開館、その業績等を紹介している。

旧町名由来「鉄砲屋町」

(現町名中央三丁目)

名のとおり鉄砲鍛冶や鉄砲張師などの鉄砲職人が住んでいた町である。慶長九年(一六〇五)、直江兼統は近江国国友村から吉川惣兵衛、泉州堺から和泉屋松右衛門という鉄砲職人を招き、白布高湯で鉄砲を製造させた。その後の職人達は、この地に移され鉄砲屋町を形成、幕末まで鉄砲職人が多く住んだ職人町である。

開館日のご案内

金曜日、日曜日、月曜日を閉館日とします。

開館時間帯は
金曜日、日曜日、月曜日が午後1時から4時まで、月曜日が午前10時から午後4時までです。

その他の曜日にご希望の場合は、開館日にご連絡ください。出来るだけご要望に応じるようしております。

入館料 無料

